

○ 第1部 地域まちづくりについて	
1 地域コミュニティについて	
【事前の質問・要望・意見等】	【市からの状況説明】
(1) 自治会加入のメリットが見えない。もっと魅力的にするようなアイデアはないか。	<p>自治会は、地域の防災、防犯、環境美化などの共通の課題に対し、ルールを定めて、地域が力を合わせて自主的に解決するという住民自治の側面で大変重要な役割がある。</p> <p>自治会未加入者であっても、防犯灯による安全の恩恵や、地区清掃による美観の利益などを受けており、公共性が高い自治会活動が、地域にとって重要な役割を果たしていることを未加入者にもきちんと理解してもらうことが重要である。</p> <p>自治会加入率の低下は喫緊の課題であり、その対策として自治会活動がより活性化し地域の結びつきが強まるよう、資金面や人的な支援を充実していくとともに、役員の負担軽減やルールの合理化など、自治会への加入促進について協働し取り組んでいきたい。</p>
(2) 自治会加入者の把握ができない現状にある。転入や住所変更の際における自治会加入促進への協力をお願いしたい。	<p>自治会活動がより活性化し、地域の結びつきが強まるよう、資金面や人的な支援を充実していくことを検討する。また、役員の負担軽減やルールの合理化を図り、自治会への加入促進につながるよう共に取り組んでいきたい。</p> <p>現在、自治会加入促進の取組みとして、転入届の際「自治会加入のしおり」を配布渡しているほか、不動産事業者にも転入者への加入呼びかけに協力してもらっている。今後は、転入者の多い時期や市民が多く集まるイベントなどで、自治会連合会との協働による加入促進PRを検討したい。</p>
(3) 自治会内のサークル活動が活発に行われているが、自治会の会員増加になかなか結びつかない。何かアドバイスをいただきたい。	(2)の回答と同じ
(4) 大介護時代を迎えるにあたり、自助、公助はもちろんのこと、「共助」がますます重要になる。地域との連携のあり方についての市の考え方を聞きたい。また自治会加入率の低下に対	<p>人口減少や高齢化社会の進行、住民の価値観やニーズの複雑化・多様化、コミュニティの希薄化などの時代を反映して、さまざまな行政課題に対応するためには、行政だけではきめ細かな対応が困難な時代になっており、これからのまちづくりには、自治会を中心にボランティア団体</p>

	<p>する原因と対策についての考え方を聞きたい。</p>	<p>や事業者などの知恵も借り、市とも協働し、力を合わせて地域の課題に取り組むことが求められている。 自治会加入のメリットがないという声を聞くことがあるが、自治会未加入者であっても、同じく防犯灯の明るさの恩恵は受けてたり、地区の清掃を他人任せにして、美観の利益を受けていたりする状況にある。 自治会加入率の低下は喫緊の課題であり、その対策として自治会活動がより活性化し地域の結びつきが強まるよう、資金面や人的な支援を充実していくとともに、役員の負担軽減やルールの合理化など、自治会への加入促進について協働し取り組んでいきたい。</p>
(5)	<p>自治会員の加入促進のため、地元商店会と連携した「自治会カード」の導入を進める先進事例があるが、秦野市での導入の検討はしているか。</p>	<p>東京都の立川市が全国で最初に「絆」カードを導入後、隣接の昭島市、県内の相模原市、小田原市などでも導入している。小田原市の「おだわらカード」、昭島市の「互近助カード」を視察し、導入についての調査研究を始めたところであり、自治会連合会での導入の可否を検討していきたい。</p>
(6)	<p>自治会離れと高齢化の課題がある中、就労年齢が引き上げられるとなると、さらに自治会活動が困難になると思われる。行政の職員が自治会活動に積極的に参加し、生の声を聞き取り課題を克服する施策を立案し、自治会活動の将来像を構築して欲しい。</p>	<p>市職員に対しては、自治会に加入して地域活動に積極的に参加し、地域の実情を感じ取るよう促している。また、地域をサポートする人的支援についても検討するなど、地域コミュニティ活動の活性化に向け、引き続き協働で取り組む考えである。</p>
(7)	<p>自治会役員、民生委員・児童委員、消防団員等について、行政がしっかりとその実態を把握し、何らかの改善や支援が必要な時期に来ていると思うが、それぞれについてどう考えているか。</p>	<p>民生委員については、業務の負担増加や担い手不足の問題が生じていることから、平成30年度から一部の業務を見直し、負担軽減を図っている。また、やりがいを知ってもらい、その活動の周知を図り、担い手の増加につながるよう取り組んでいく。 消防団員が全国的に減少しており、本市でも定数416名に対し、令和元年7月1日現在28名不足している。主な要因は、就業形態の変化や若年者の意識の変化等が考えられ、団員の福利厚生を充実させる目的から、市内の店舗の協力による「消防団サポートショップ制度」や、消防団で活動する学生等に対し、就職活動時に証明書を発行し面接等で活用できる「学生消防団認証制度」等を行ってきた。また、人が多く集まる場所への募集案内の掲示や、各種イベント会場での入団促進活動を積極的に行うことにより、自主的な入団希望者の増員に取り組んでいく。</p>

<p>(8)</p>	<p>西地区の外国人は569人だが、自治会加入者が何人いるかを担当課が把握していない。防災活動に関する啓発も、パンフレットの配布程度に留まっている現状において、外国人は震災時、どうすればいいか、どこに行けばいいのか、誰に頼ったらいいのか、何をすべきかなどについて、関係課合同による外国人向けのセミナー等を実施する必要があると考える。 ①このことについての考え、②今後の予定、③外国人への防災対策への考え、④外国人に対する避難所運営、という視点で考えを聞かせて欲しい。</p>	<p>インターネットによる多言語防災情報の提供、避難所への多言語カードの配備をしているほか、国際交流フェスティバルの会場で、やさしい日本語に対応した防災関係のチラシ配布や各地区の避難所を大型地図で紹介、各地区防災マップの配布・説明、アルファ化米の紹介等を実施し、防災意識の向上を図っている。 国でも平成29年度から「災害時外国人支援情報コーディネーターの養成」がスタートするなど、外国人居住者の災害時対応に本格的に動き始めたばかりであり、国や県からの情報や研修会を通じて、関係課と連携してさらに調査、研究をし、有効な取り組みを行いたい。</p>
<p>(9)</p>	<p>「とちくぼ買い物クラブ」が好評である。他地区では実施されていないが、同様の課題を抱える地区等に対する買い物弱者への救済について、どのように考えているか。</p>	<p>この取組は、地域と社会福祉法人が主体となり、市が双方の橋渡し役となり実現したもので、今後のモデルになるケースと考えている。現在、西地区以外の所で1か所検討を始めたところであるが、公共交通機関の利用への影響や運転をする担い手の問題などがあり、具体的な活動になかなか繋がりにくい状況にある。また、「のんちゃん号」のような移動販売も、宅配サービスを利用することができるため、安定的な経営を維持することが難しく、秦野市への参入は厳しい状況にある。 今後は、地域のニーズを把握し、地域、行政、社会福祉協議会、社会福祉法人や民間事業者、関係団体がそれぞれの強みを生かしながら連携し、役割分担により、地域の実情に応じた支援ができるよう、取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>(10)</p>	<p>減量化や不法投棄など、ごみに関する問題が自治会に委ねられているが、自治会と切り離し、ごみ問題を専門に管理する組織を立ち上げ、巡回の強化や情報連絡の迅速化を図るような取り組みをしたらどうか。居住者全員の課題として、老若男女すべての人たちに参加してもらおうのが良いと考える。</p>	<p>廃棄物の減量や適正な処理等については、「秦野市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」により、市民、事業者及び市が一体となって取り組むこととしている。地域においては、廃棄物減量等推進委員やリサイクル委員を中心に、ごみ問題の啓発等に取り組んでいただいている。 ごみ収集場所の維持管理は利用者で行うことが原則であるように、ごみ問題等は市民全員の課題として認識することが大切である。園児、児童に対する環境教育や、老人会、PTAなどへの出前講座などを継続することで、周知、徹底を図っていきたい。</p>

【当日の質問・要望・意見等】		
<p>(要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみの不法投棄や分別誤りがかなりみられる状況になっているが、自治会内の周知だけでは改善されない。外国人が増えている中で、カレンダーも日本語版しかなく、できれば主要な外国語のものを作るとか、掲示するとか工夫すれば周知できると考える。 8月1日から「ごみアプリ」の提供を開始し、収集日や分別方法などをお知らせできるようになった。今のところ英語だけではあるが外国語にも対応しているので、スマホなどで活用していただければと取り組んでいる。 		<p>学校前自治会</p> <p>環境産業部長</p>
2 地域の安心・安全について		
【事前の質問・要望・意見等】	【市からの状況説明】	
<p>(1) 昼間の時間帯に地震が発生したときの対策として、子供向けの防災啓発事業を実施したらどうか。(宮城では避難所の受付を小学生が行っていたと聞く)</p>	<p>小・中学校の総合的な学習の時間等を活用し、防災課職員や防災アドバイザーによる防災講習、学校内にある防災施設や避難所での過ごし方等の説明を防災教育の一環として行っているほか、小学生親子を対象とした「親子で防災Dayキャンプ」や消防団の指導による消化訓練等も実施している。</p> <p>防災教育の重要性は、過去の災害事例でも立証されていることから、今後も教育委員会と連携し、取り組んでいきたい。</p>	<p>くらし安心部長</p>
<p>(2) 消防署とカルチャーパークに設置されている震度計は、実際の揺れに対し震度が低く出る傾向にある。正確な数値が出るように設置場所の変更を検討したらどうか。</p>	<p>震度計を設置するには、気象庁の定める「震度計設置環境基準」に適合しなければならず、概ね市の中心に位置し、地盤が水平で建物等構造物の影響を受けにくい場所ということから消防本部が選ばれているが、同じ地域であっても地盤等の違いによって観測される震度の値に差が生じる。</p> <p>消防本部に震度計があることで、地震発生時に各地区の消防署が高所見張りや状況に応じた巡回パトロール等など、速やかな初動体制を確保し、関係機関と迅速な連携を図ることが可能となっている。</p>	
<p>(3) 訓練の内容が「訓練のための訓練」と感じる。運営委員が毎年のように変わってしまうので、最低5～6年位継続してもらい委員の選出、防災担当委員のみ参加する模擬訓練に、地域</p>	<p>避難所運営委員に限らず、自主防災会の役員等についても、可能な限り複数年務めていただくことが望ましいところであるが、それぞれの自治会の事情により、任期等を定めることは難しいと考えている。</p> <p>そのため、年度初めに開催する避難所運営委員会において、組織・役</p>	

	住民も参加する、といったようなことを検討したらどうか。	割等を確認し、訓練時の継続性が保てるようにしている。 また、昨年度の避難所訓練後、参加者から頂いた意見を踏まえ、今年度は、自治会長や自主防災会の方々にも御協力いただくことを検討し、地域住民一人ひとりが避難所運営を体験していくことにつなげていきたいと考えている。
(4)	地域で発生した異変をいち早く地域住民に知らせるため、自主防災会からの依頼で防災行政無線の発信ができるよう体制の整備をお願いしたい。	緊急地震速報やテロ等の情報は総務省のJアラート通信を利用し、自動的に全市へ放送される。また、風水害等における避難情報の発信にあたっては、河川氾濫、土砂災害、それぞれについて、避難に十分な時間を確保できるよう、発令基準、対象地域を定めており、これ該当した場合に放送している。 自主防災会等から情報をお寄せいただくことで、細かい地域の異変を知ることができる。避難該当地区を指定して情報を発信することもできるので、是非、市役所代表番号(82-5111)に御連絡いただきたい。
(5)	広域避難場所などについてのマップは作成されているものの、町中(まちなか)に案内がないため、もしものときに不安がある。道路の目立つ場所に案内板が必要と思うが、いかがか。	広域避難場所であることを知ってもらうため、その正門付近に看板を設置しているほか、その場所を案内するため、公園や公民館に案内図を、市道や県道の一部に道路標識を設置している。 また、平成29年8月に東電タウンプランニング(株)と避難場所案内広告付電柱看板の掲出についての協定を締結し、地元企業等が利用する電柱広告(巻広告)に避難場所の案内表示を掲出することで、その周知に努めている。
(6)	堀川東自治会管内には、公園、自治会館も含めて全く公共施設が無く、一次避難場所も借地をお願いしている。是非避難所となり得る、何らかの公共施設の整備をお願いしたい。	現段階では、要望をいただいた区域内に新たに公園等の公共施設を整備する予定はない。民間の環境創出行為等により新たに公園ができることも分かりかねるので、事業者等の協力をいただくなど、一時避難場所として適切な場所を、決めていただきたい。
(7)	防犯灯の設置基準を満たしていないが、危険と思われる場所について特例的に設置は可能か。	防犯灯の設置は「秦野市防犯協会防犯灯設置及び管理に関する要綱」で手順を定めている。要綱に定める「曲線部分又は樹木、看板等の障害物のため見通しが悪く、防犯上又は交通安全上防犯協会長が必要と認める場合」の例に該当する場合もあるので、現場を確認させていただきたい。

(8)	<p>高齢者による交通事故対策を進めるとともに、これに伴う免許返納や交通難民対策を実施して欲しい。</p>	<p>交通事故の傾向は、年代別では高齢者が、状態別では自転車の事故が、件数、割合ともに増加傾向にある。また、幹線道路に集中して交通事故が発生している傾向があることから、早めのライトアップや飲酒運転防止など、季節に合わせた啓発を行い、重点的な交通事故防止対策を実施している。</p> <p>高齢者の運転免許証返納の支援として、運転免許自主返納サポート協議会加盟店で運転経歴証明書を提示することで、各種サービスを受けることができることを、市ホームページなどを通じて案内している。また、運転免許証返納後、買い物など重い荷物を持つての移動が困難な方もいるので、市が行う高齢者のための生活支援の情報を提供したり、公共交通の利便性向上のための事業者の協力を得られるよう働きかけたりするなど、関係部署と連携して取り組んでいきたい。</p>
(9)	<p>カーブミラーの申請が却下されることがあるが、基準を教えて欲しい。</p>	<p>設置要望をいただいた場合、対向する車両等が互いに相手を確認できない場所である、あるいは反射鏡を設置することにより、事故を未然に防ぐことができる場所であるなどの道路反射鏡設置基準に照らし合わせ、現地調査を行う。運転者が直接見通せないなど、安全確認の可否により、設置の判断をするとともに、設置できない場合については、きちんとその理由を説明させていただく。</p>
(10)	<p>空き家が増えてきている現状を踏まえ、把握している実数とこれへの対策について教えて欲しい。</p>	<p>本市が所有する家屋データと住民基本台帳データから抽出した結果、市全体で空き家は1,900件弱(空き家率3.9%)、うち西地区では、約400件程度(空き家率3.3%)あると推測している。抽出した物件について、今年度全件の現地調査を行っており、年度内には実態把握が完了する予定である。</p> <p>現在行っている対策として、管理がされてなく、周辺の住環境に悪影響がある空き家について、所有者へ指導等を行い是正を図っている。</p> <p>今後、調査結果を踏まえ、空き家の利活用や未然防止策を含めた総合的な対策を講じていきたい。</p>
(11)	<p>人的被害が出る前に、早急に有害鳥獣を減らす対策を強力に推進して欲しい。また、中井、大井、松田、山北、小田原、厚木などで実績のある補助金制度を立ち上げ、捕獲の促進を要望する。</p>	<p>平成30年4月1日に鳥獣被害対策の窓口を、はだの都市農業支援センターに一本化することで、生活被害や農業被害にかかわらずワンストップで対応している。また、今年度、猟友会会員を主な隊員とする「秦野市鳥獣被害対策実施隊」を新たに組織し、農家や生産組合の高齢化や人員不足により、負担となっていた捕獲後のシカ・イノシシの埋設処理等</p>

を、市内全域で行うことで、農家等が設置する「わな」を十分に機能させるとともに、さらに、銃器捕獲を推進することで対策を強化しているところである。

平成30年度は、市全体で、シカ99頭、イノシシ60頭が捕獲されたが、令和元年度においては、実施隊の活動による相乗効果で、シカ200頭、イノシシ100頭の捕獲を目指している。鳥獣被害の軽減には、鳥獣の捕獲数を増やしていくことが何より重要であると考えている。

このため、実施隊の活動も含めた捕獲個体数の増加など具体的な効果を検証しながら、捕獲奨励金の導入も含めた今後の対策を検討していきたい。

【当日の質問・要望・意見等】

(要望)

・ 鳥獣による農作物への被害は、農家にとって死活問題になっている。趣味ではなく、自ら農作物を守るために狩猟免許を取得した。毎年、対策のための補助金を出してほしいと要望している。周辺の自治体はほとんど補助金を出しており、環境省のデータでは補助金のみで効果が上がっていることが確認できる。来年度に向けて積極的な回答をお願いしたい。

千村第3自治会

・ 農業者の高齢化、後継者不足により農地の荒廃化が進み、「けもの道」もできている。直近のデータでは、この3年で被害額が600万円も増えていることを確認している。鳥獣被害には、山林整備、防除ネット等による侵入防止、銃や罠による捕獲の3本柱で対策を進めている。今年度立ち上げた「秦野市鳥獣被害対策実施隊」により駆除頭数を増やしていく取組を進めていく。また平沢では、有効な講じていくためドローンによる生息調査を行う。

補助金については他自治体の状況を見て、効果的と判断できれば来年度の予算で検討したい。

環境産業部長

(質問)

・ 防犯カメラの設置を要望しているが、どうなっているか。

千村台自治会

・ 防犯カメラの設置について、自治会等からの要望等について、9月頃相談をさせていただくことを考えている。この結果により、補助金で対応するか、設置済みの機器の移設の対応とすることなどについて、今年度中に結論を出したいと考えている。

くらし安心部長

(要望)

・ カーブミラーの設置について相談したところ、私有地が含まれているので市では設置できないことから、自分たちで付けてくれと言われた。現場を見ていただくと分かるが、誰も私有地とは考えていないし、必要性を分かってもらえると思う。基準を見直すべきではないか。

学校前自治会

・私有地であっても、現場の状況から市が設置することが適切かどうかを判断することが大切と思う。もう一度よく調べて、必要であれば基準を見直すことも検討したい。

市長

3 市道等の状況について

【事前の質問・要望・意見等】

【市からの状況説明】

(1) 新東名の建設が進んでいるが、これに伴う動植物の生態、河川水質、大気、騒音など、工事前と比較した影響調査をしたのならその結果、また開通後も継続して調査をしていくのかについて、それぞれ聞きたい。

新東名高速道路の事業化にあたり、平成8年度に神奈川県が実施した環境影響評価(環境アセスメント)の結果は、担当部署である環境計画課の窓口で閲覧できる。
また、中日本高速道路(株)によると、同社が行った大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など20項目の調査、予測、評価において、大気や水質等における予測値は、いずれも基準値を下回っているため、周辺に与える影響は小さいと推測しているとのことである。
さらに、地下水の保全、希少猛禽類(オオタカ等)・動植物への保全対策については、同社が設置している有識者等による検討委員会において審議し、慎重に進めているとのことである。
なお、新東名高速道路の開通後は、環境の状態等を把握するための調査(事後調査)を同社が行い、これを基に環境変化を的確に把握し、適切な対策を講じていきたいとのことである。

建設部長

(2) 国道246バイパスの建設計画、進捗について具体的な説明をして欲しい。

246号バイパスは、平成26年4月に伊勢原西IC(仮称)から秦野中井IC間の約5.2kmが事業化され、平成27年度から平成29年度にかけて、国(国土交通省)が路線測量、地質調査、地盤調査等を実施した。
現在は、道路設計及び環境調査を進めており、道路設計後には、用地説明を経て、用地買収に入っていくとのことである。
また、新東名高速道路の工事に併せ、上地区菖蒲地内で進められている国道246号への接続道路部分では、246号バイパスの関連事業(秦野西IC改良工事)として工事が進められている。秦野中井ICから西側の未事業化区間については、伊勢原市、厚木市及び中井町の3市1町で組織する国道246号バイパス建設促進協議会等を通じ、国や県に対して引き続き要望活動を実施するなど早期の事業化を働きかけていく。

(3)	<p>曲松交差点での朝夕の時間帯の渋滞解消について、昨年度要望したがなんら変わっていない。状況説明をお願いしたい。</p>	<p>渋滞に伴い住宅街へ迂回車両が進入すること、通学・通勤時間帯の安全確保の観点からも、神奈川県警において検討している状況である。</p>
(4)	<p>渋沢駅周辺の踏切が狭いと感じる。特にヤオコー近くの踏切、道路は危険だと思うので、周辺の整備を早急に進めて欲しい。</p>	<p>この箇所は、平成2年に幅員を4mから6mに拡幅した。これを更に拡幅することは、建物が道路に近接していることから、非常に困難な状況と考えている。 しかしながら、歩行者の安全確保のための方策は講じたいと考えており、今後は例えばイメージ歩道の設置など具体策の検討を行いたいと考えている。</p>
(5)	<p>堀西入口交差点北側の道路が狭く、標識があるため車のすれ違いが困難。標識を移動することはできないか。</p>	<p>交通規制に関する標識を所管する秦野警察署に確認したところ、交通規制基準に基づき、その目的や視認性などを考慮したうえで設置場所等を決定するとのことだが、民地に設置することは出来ないため、該当標識の移設は難しいとのことだった。</p>
(6)	<p>柳町2丁目1号線と沼代新町10号線ほか住宅街における歩行者への安全対策及び市道17号線の沼代地内の歩道のカラー舗装をお願いしたい。</p>	<p>イメージ歩道の整備は、市、学校、警察との連携で行っている通学路合同点検等で指摘された箇所を優先に、順次整備を行っている。道路幅員等の状況によっては設置できない場合もあるものの、指摘のあった場所は、いずれも通学路に指定されている路線であり、今年度の点検時に現場状況の確認を行い、安全対策の検討を行う。</p>
(7)	<p>行き止まりとなっている住宅地の道路が目立つ。建築確認や、宅地開発申請等の際、指導をして欲しい。</p>	<p>開発許可等の審査において、周囲にある市道や既設の開発道路等と接続する可能性がある場合は、行き止まり道路とならないよう開発業者に指導している。今後も地域のまちづくりという視点に立ち、道路部局とも連携して、安全で住みやすい環境の創出に向けた指導に努めていきたい。</p>
(8)	<p>道路の舗装工事が完了しても、舗装のつなぎ目が良好でなかったり、水溜りができたりしている箇所が見受けられる。施工業者の技術力の把握はどのようにしているか。</p>	<p>公共工事については、工事を施工する中で市の監督員が現場を管理し、良好な状態であることを確認するとともに、工事評点をもって施工業者の評価を行っている。工事の結果、道路に不具合があると考えられる場合は、早急に現場を確認するので、建設総務課にお知らせいただきたい。</p>

【当日の質問・要望・意見等】		
(要望) ・ 峠のトンネルから渋沢中学校までの間について、カラー舗装がされたことに、地元では大変喜んでいる。ただ、最近車の通行量が増え、特に朝夕の通勤時間帯は、交互にすれ違う車がカラー舗装まで入ってくるため、住民が危険に感じており、市にも相談に行ったことがある。状況を確認していただき、対策を立てていただきたい。 ・ 状況を確認するため、後日御連絡させていただく。		渋沢新光団 地自治会 建設部長
4 にぎわい創出について		
【事前の質問・要望・意見等】		【市からの状況説明】
(1)	休日になると、渋沢駅周辺に多くの登山客が来るが、商店街に立ち寄ることがない。市と商店街で対策の検討はしているか。	今年度、渋沢駅をはじめとする市内4駅周辺のにぎわい創出に向けて「にぎわい検討懇話会」を設置した。これは、本市の優れた地域資源を活用することにより、魅力と活力のある経済活動を促進し、地域のにぎわいを創出するため、長年市のまちづくりに携わっていただいている大学教授をアドバイザーに迎え、各駅周辺の商店街団体のほか、まちのにぎわいづくりを進める若手商業者や若手農業生産者のグループ、また一般消費者として、婦人会やPTAから選出された方々をメンバーとして構成している。 メンバーには、渋沢駅周辺の商店会からも参加していただき、丹沢に訪れる多くの登山者を渋沢駅周辺の商店街へ誘導することも含め、市内4駅周辺のにぎわい創出に向け、検討を始めたところである。
(2)	小田急4駅のにぎわい創出が5つの誓いにあるが、渋沢駅北口から戸川公園、大倉高原入口までを西地区の「自然と生活の骨格軸」と位置づけて、通学路の安全性確保、都市景観の観点に基づく歩道設置、カラー舗装、ガードレールのデザイン化などに、住民参加方式で検討し取り組んだらどうか。	渋沢駅は、丹沢登山や秦野戸川公園などへの観光の玄関口であり、駅周辺の商業地を中心に、これまで計画的な市街地整備を実施してきた。 御提案については、今のところ市の各種計画における具体的な位置付けがないが、駅周辺のにぎわい創出も含め、西地区の個性や魅力を生かしたまちづくりにつながるものと考え。今年10月以降に開催する「地域まちづくり計画策定会議」で、十分検討いただくとともに、市の行う支援等について関係部署が連携して対応を図っていく。
【当日の質問・要望・意見等】		

	(質問) ・「秦野」の資源と言うと、緑、丹沢がすぐに思い浮かぶが、以前ZARDでの観光振興を図ったことがある。今ではプレートがあるのみで、個人的には大失敗と考えている。秦野には丹沢しかないという固定概念ではなく、こういった部分が欠落していると感じ、工夫する余地があると思う。考えを聞かせて欲しい。	曲松第一自治会
	・ 秦野を生かすための資源が丹沢だけとは思っていない。これからこういった形で秦野を売り込んでいくかという部分も含めて、10月以降に開催する「地域まちづくり計画策定会議」において皆さんの意見を聞きながら、しっかりと検討していきたい。	環境産業部長
	(要望) ・ 以前から要望している、頭高山ハイキングコースの道案内の標識が手付かずになっている。観光ガイドに地図が載っているものの迷う人が多く、道を尋ねられることがよくある。きちんと分かれ道に標識を設置してあげて欲しい。	千村台自治会
	・ ハイキングルートを確認し、必要などところへの案内板の設置を検討する。	環境産業部長
○ 第2部 市政全般について		
	(要望) ・ カルチャーパークの駐車場が、ナンバーで案内されている。整備計画の段階で管理するためにナンバーを付番するのは理解できるが、実際に使用が開始されたときに番号で案内されても分からない。例えば「文化会館北側駐車場」とか「図書館南側駐車場」というように、利用者にとって分かりやすい名称に変更して欲しい。	堀山下東自治会
	(要望) ・ この懇談会の中でも「検討します」、「取り組みます」といった表現がされるが、いつまでにやるという期限の説明が必要である。	学校前第6自治会
	・ 仕事を進めていくうえで期限を定めることは重要なこと。なかなか明確にお伝えできない場合もあると思うが、できるだけしっかりとお答えできるよう徹底していきたい。	市長
	(要望) ・ 市道若松町8号線の歩道が狭いことについて再三お願いしている。歩道での対向ができずどちらかが歩道に降りて通行している状況にある。市民生活に危険が伴うところであり、真剣に取り組んでいただきたい。	(確認中)

<p>(要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路工事について事前に回覧が回ってくるが、もう少し全体的な予定として、いつ、どこの道路に工事が入るのか、色分けして分かりやすく知らせてくれるとありがたい。 市境を始め、市内各所に、様々な案内板がある。何か秦野を象徴するキャッチフレーズを入れたり、統一デザインにしたりすることで、訪れてくれた人に秦野のイメージを定着してもらうことができる。是非検討して欲しい。 	<p>曲松第一自治会</p>
<ul style="list-style-type: none"> 北海道では工夫したものがあると聞いている。他市の事例を調査して、検討してみたい。 	<p>政策部長</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西公民館の跡地はどうなるのか。これから要望をあげることはできるか。 	<p>柳町自治会</p>
<ul style="list-style-type: none"> 一度更地にして駐車場にする予定である。これまで何度も地元の意見を聞きながら検討してきたので、今から要望をお聞きすることはできない。 	<p>文化スポーツ部長</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> せっかくの地区別市政懇談会なのに、若い人の参加がほとんどない。若い人が参加できる仕組みは検討できないか。 	<p>曲松第8自治会</p>
<ul style="list-style-type: none"> 年代を指定した懇談会ではないので、若い人にも是非参加していただきたいと考えている。先日、子育て、魅力づくり、豊かなセカンドライフをテーマに、3回にわたって「はだのみらいづくりワークショップ」を開催した。ここには、高校生や大学生、主婦といった方に集まっていただき、大変活発な意見をいただいたところであり、こうした機会をあらためて検討したい。 	<p>政策部長</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> この懇談会も平日の夜の開催となった。サラリーマンや主婦、学生などが参加するのに、こうした日程も検討すべきと考える。 	<p>曲松自治会</p>
<ul style="list-style-type: none"> これまでも、土日、昼間など試行錯誤しているが、それぞれ一長一短がある。来年度また日程については検討する。 	<p>まちづくり委員会</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの誓いのうち、中学校完全給食の進捗状況を教えて欲しい。 	<p>堀川自治会</p>
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月の開始に向けて準備を進めている。「センター方式」にすることで決定し、旧水道局庁舎の敷地にセンターを建設して、各校に配食するというシステムになる。公募型のプロポーザルを実施し、年内に事業者を決定する予定としている。予算措置として、6月の市議会定例会で、総額69億円を上限として令和23年まで実施することを議決していただいた。事業者が決定したら、あらためてお知らせしたい。 生徒に喜んでもらえる給食にすることはもちろんのこと、産業振興の観点から、食材については市内の店舗から調達することで地産地消 	<p>市長</p>

の取組にもつながる。
関心が高いことと思うので、広報などを通じてお知らせしていくので、意見があれば是非いただきたい。